

職場サークルと歩む

～和楽器・箏を通じて～

木内 正人

はじめに

職場サークルの役割は、職場の親睦を深めるのを主な目的とし、雇用する側、される側に関係なく、そこに従事するすべての勤労者が通常業務から離れて気分転換できる時間を共有するものだ。しかし現在では、こうした親睦も少なくなつた。長引く不況で職場環境は大きく姿を変え、かつて終身雇用が主流だった日本の企業も、これまでの雇用形態が維持できなくなつたことにも起因している。

現在、多くの企業に短期間の非正規雇用が増え、職場の親睦ムードも影を潜めるようになった。一方、企業コンプライアンスなどの

影響もあつて、閉塞感の中での勤務が職場の日常ともいえる。そうした社会背景を反映してか、かつて数多く存在した職場サークルも次第にその数を減らしていった。あるいは、「職場サークル」という言葉そのものがすでに死語なのかも知れない。

しかし、私たちは健全な社会を形成する上で、職場サークルが必要不可欠であると認識している。現代のサラリーマンに多い心の疾病も、希薄な人間関係がもたらした結果であるといつても過言ではない。職場サークルは組織人としての自覚を促すと同時に、円滑なコミュニケーションを可能にする有用な手段である。そして、単なる職場の親睦を超え、企業と地域社会とのインターフェースとして

大いに役立つものと確信している。そうした職場サークルの重要性を、私たちの日頃の活動を通して述べたいと思う。

職場サークルとその生い立ち

私たちは和楽器「箏」を演奏する音楽サークルである。そして冒頭にも述べている「職場サークル」でもある。「箏曲部（そうきょくぶ）」とも自称しているが、実体は「邦楽」とは何ら関係のない職場の有志によって誕生した音楽仲間の集いである。基本メンバーは七名で、都内の製造業に勤務する従業員によって構成されている。演奏会ではサポートメンバーとして、他の事業所やメンバーの家族、

知り合いなどから「楽器の弾ける人」の助けを得て、基本メンバー以外に数名が参加することもある。

サークルがいつ頃誕生したのかは定かではない。初代の部長は、山田流の箏を習った経験のある従業員だった。安い中古の箏を集め、気の合う仲間が昼休みの気分転換に弾いていたものだ。しかし、初代の部長はすでに退社し、他のメンバーも人事異動や退社にともなうサークルを去っていった。それゆえ、現在においてサークル創設当時のメンバーは存在しない。

活動時間は昼休憩内の十五分程度。活動場所は、倉庫の片隅に設けられた会議室である。そんなささやかな「職場サークル」だが、特筆すべき点は何と言ってもメンバーの結束力



▲「職場サークル」のメンバーと『ボランティア演奏会』の風景

であろう。サークル活動の根幹にあるのは、何よりもコミュニケーションを重んじるメンバーそれぞれの意識に他ならない。

演奏曲はメンバー自ら編曲・着メロで学習

私たちのサークルでは、独自の編曲楽譜を用いている。その理由は、メンバーが誰一人箏や邦楽を習ったことがないからだ。また、私たちのレパートリーの中に箏の古典は存在しない。それゆえ、演奏する曲は演奏会のお客様の年齢層に合わせて、歌曲や唱歌を演奏している。

楽曲の編曲はメンバー（筆者）が行っている。箏の調弦内で演奏可能かつメンバーの力量に合わせた編曲をする。編曲したフレーズをメンバーに伝えるのも独自の方法を用いている。まずはピアノを使って大まかに編曲し、それをPCに打ち込む。PCで再生しながら和音やフレーズなど曲の全体像を調整し、編曲が完成したら携帯電話の着メロのデータに変換する。着メロとなった編曲演奏を携帯メールに添付して、メンバー全員に配信する。この方法に至った理由は、少ない練習時間で効率をあげるためである。メンバーには着メロで編曲した各パートを、練習前に事前に覚えさせることで早く弾けるようになる。

ホームページでの取り組み

今や生活に欠かせないインターネット。近年ではブログやSNS、ツイッターなどによって多くの人が自らの情報を発信するようになった。しかし、インターネットが登場する以前はテレビやラジオが主体で、マスメディアによる一方通行的な情報であった。

筆者がインターネットの優れた可能性に気付いたのは、一九九六年九月に仕事でアメリカ西海岸に行ったのがきっかけだった。もはや一方通行の情報の時代ではない。そう思っ取り組んだのが自らのホームページの制作だった。『箏曲部』と名付けた私のホームページは、当時珍しい和楽器「箏」をテーマにしたものだったので、たくさんの方の集いの場となった。そして現在は、邦楽コミュニケーション・サイトとして継続している。(http://kuchijpn.org/souhome.htm)

何より、多くの人を呼び寄せた最大の理由は、私たち職場サークルの活動を積極的に公開したことにある。「いつ?・どこで?・何を?」。これらサークルの日常の話題をアップすることこそ、ホームページに必要不可欠な要素だと思う。そうした「表現の自由」は人々の賛同を呼び、現在では「支部」と呼ば

れる集まりが全国に点在している。

職場サークルとボランティア

私たちサークルの演奏会を、あえて「ボランティア演奏会」と呼んでいる。それは、ボランティアがとても簡単かつシンプルだというのを、多くの方に知ってほしいという意図がある。つまり、ボランティアは誰にでもでき、立場の違う人々と思いを共有できるからである。ボランティアはサークル活動にも大きな意味を持つようになった。

最初のボランティアは一九九九年五月のこと。近くの病院からの依頼によるものだった。なかなか演奏会を行う機会がなく演奏場所を探していたところでもあったので、病院からの依頼はとても嬉しく思った。

また、演奏能力が低いのも自覚していたので、聴いてもらえるだけで充分だった。しかし、患者さんたちの反応は、私たちの想像を越えるものだった。大きな拍手と「ありがとう」の声。そして患者さんたちの目からは溢れんばかりの涙。それは、私たちにとって今も忘れることのできない衝撃的な出来事であった。なぜなら、私たちは「とりあえず出来ること」をやっただけだからである。こうして現在は、東京北区の老人介護施設を中心に

ボランティア演奏会を行っている。

また、ボランティア演奏会の様子を『私の音楽室』というホームページで積極的に公開している。それは単なる活動のPRではなく、多くの人にボランティア活動の楽しさを感じて頂きたいからである。(http://kiuchijpn.org/music.htm)

職場サークルが繋げる人々の輪

私たちは職場サークルでありながら、メンバーの家族も含めた暖かい支援と協力関係によって支えられている。サポートメンバーには、ピアノ、バイオリン、チェロなど様々な人たちの協力を得ているが、そうした協力者は職場の同僚のみならず、退職されたかつての上司、ときには、メンバーの子供たちが参加することもあった。特に介護施設の高齢者たちには、孫のような子供たちの熱演をとても喜んで下さる。子供たちにとっても、母と一緒に演奏した思い出は一生覚えていいることだろう。職場サークルは「職場」という枠を越え、ボランティア活動を通して地域社会との接点をもたらししているのである。

ボランティア演奏会のサポートメンバーたちは、筆者の住む街においてもその活動の幅を広げている。千葉県柏市にある「柏プラネ



▲「柏プラネタリウム」のドーム内での「星空音楽祭」

タリウム」という市民ボランティアで運営されている公共施設では、プラネタリウムのドーム内で『星空音楽祭』という投影が行われた。満天の星空の下でチェロとピアノの生演奏を披露するというものだ。職場サークルが繋げる人々の輪は、地域やジャンルを越えて広がり続けている。

身の丈にあった活動を

職場サークルを続ける上で最も大切なのは「身の丈にあった活動」である。それは、無理してやるのではなく、自分たちにできるものをする事だ。また退職された歴代部長の一人がこうも言っていた。「決して活動を強制してはいけない。強制したとき、それは職場サークルではなくなる」。職場サークルとは、常にメンバーの自発的な行動によって運営されるのが最も望ましい姿なのだと思う。これからも可能な限り活動を続けて行きたい。